

(議長)

次に、萩原議員の発言を許可致します。

「萩原議員」

「萩原議員」

それでは早速質問に入らせて頂きます。

一次産業の支援策についてでございます。一次産業の振興は今後の町づくりにおいて、欠かせない施策のひとつであると考えますが、江差町の一次産業を取り巻く環境は農業では米価の下落等、漁業では燃料の高騰や回遊性魚種の水揚げ不振、特に12月から始まったスケソウ漁では今季は昨季より9隻少ない3隻の漁となっており、いずれも厳しい経営環境となっております。このため、江差町独自の一次産業に対する支援策を構築するべきと考えますが、如何でしょうか。

(議長)

「町長」

「町長」

萩原議員の第1点目、一次産業の振興策についてご答弁申し上げます。

一次産業の振興は今後の町づくりを進めていく上において、重要な課題であると認識しております。このような中、漁業における燃油の高騰や水揚げの不振、農業にあつては米価の下落等、一次産業を取り巻く環境が厳しいことは、議員ご指摘のとおりでございます。町ではこれまでも、産地生産力強化総合支援事業の実施により、灌漑費用や土壌改良費用等、農業者の負担の軽減を図るとともに、漁業においては、ナマコ増殖事業への助成、原価の情勢を鑑み9月議会における補正予算にてイカ釣り漁業者を対象とした緊急燃油高騰対策を講じて参りました。先般開催した、まちづくり懇話会では参加された農業者から多くのご意見、ご提言を頂いているところであり、現状の支援策について検討、検証が必要なものと考えております。このため、一次産業に対する新たな支援策の在り方について、現場の声を踏まえ検討して参りたいと考えておりますのでご理解の程宜しくお願い申し上げます。

(議長)

「萩原議員」

「萩原議員」

今答弁頂きましたが、来年度の予算編成に向けて、例えば漁業者の漁具等の購入費の助成とか、後、今年度実施しましたけども、イカ釣り漁船に限りましてけども、燃料

の高騰対策をもうちょっと違う部分にも拡充するとか。後、多分要望あると思うんですけども、泊の漁港の巻き揚げ小屋の整備、農業では、農業ですと平成23年度から行い、本年度で終了する産地生産力強化総合支援事業の継続を含めた新たな制度設計を行うなど、実行性と即効性の両方を兼ね備えた支援策を早急にするべきだと考えます。またですね、町長、町長ですね、前回、若者が希望を将来に、若者が希望を将来に持てる町づくりの私質問しましたけど、その答弁で、一次産業である漁業や農業に従事する若者を一人でも多く育てたいという答弁がありました。特に漁業ではナマコの方は、ナマコの養殖の方では若者が中心となってやっていますので、もうちょっとですね、あの浮沈式ナマコの養殖の生簀、前回の補助しましたけど、もうちょっと増やすために補助するとか。あと、若い農業者に新たにブランド化に対する支援策をした方がいいと考えますが、如何ですか。

(議長)

はい、「農林水産課長」

「農林水産課長」

萩原議員から具体的な支援策を含めたご質問でございます。先ほど、町長の答弁にもありましたとおり、今現在担当課で様々な角度から支援策について検討していることは事実であります。例えば、新たな農業や漁業に取り組む者にスポットを当てて、ピンポイントで支援をする方策、もしくは苦しい経営環境を下支えするような幅広く農業者、漁業者に享受できるような支援の在り方など様々な角度から検討しているのは事実です。ただ一方で、先ほど室井委員長の方からもありましたが、財政健全化が成し遂げられたといってもですね、まだ道半ばな部分もございますので、財政規律をしっかり堅持しながら具体的な支援策について早い時期に一步を踏み出したいと考えておりますので、宜しくお願い致します。

(議長)

いいですか。

「萩原議員」

はい。

(議長)

はい、2問目ですか。はい、2問目。

「萩原議員」

それでは2問目に入ります。路線バスについてでございます。5月にJR江差線の廃止により、木古内江差線はバス運行になり、10月のダイヤ改正によって木古内から江差道立病院まで路線が伸びました。しかし、ダイヤ改正により、一部の町民が不便をしています。函館行き始発のバスが10分遅れたことによって、通勤で使っている人が始業時間に遅れる。また函館に病院通いしている人が五稜郭、丸井のあたりですね。あそこに前までは停まっていたんですけども、そこに停車しなくなったり、また乗り継ぎ等で時間がかかるということです。また、札幌方面に行く場合の八雲線も午後の時間帯が遅くなったこともそうであります。バスのダイヤ等に関しては、近隣町村や他の交通機関との兼ね合いもあり、簡単ではありませんが、生活交通路線等の費用の維持の補助を出している以上、町民の意見として、バスダイヤの改正を働きかけては如何でしょうか。

(議長)

「町長」

「町長」

萩原議員の2点目、路線バスについてご答弁申し上げます。

議員のご質問にありまして、4月以降、江差町を経由する路線バスの何本かのダイヤが改正となっております。ダイヤ改正の背景と致しましては、JR北海道のダイヤ改正に伴う接続対応や本年5月11日をもってJR江差線が廃線となったことに伴い、新たに江差木古内線の代替バスを運行したことなどが主な要因となっております。議員からご指摘のありました函館江差線の関係につきましては、これまで五稜郭経由1往復と市立函館病院経由5往復の合わせて6往復の運行となっておりますが、五稜郭経由の便につきましては、これまで自治体の補助を受けない補助対象外路線となっており、単独で運行して参りましたが、年々収支が悪化している状況から系統を廃止し、5月1日から同時刻便は国庫補助路線である市立函館病院経由のみに変更となっております。また、江差八雲線につきましてはJR北海道のダイヤ改正や、檜山各方面の路線との接続の関係から、9月1日から下り便の発車時刻が見直されております。さらには江差ターミナル止まりとなっておりました江差木古内線が10月1日から道立江差病院までの運行となり、替わって上ノ国小砂子線が江差ターミナル止まりとなっておりまして、小砂子線との接続の関係から函館行き始発時刻が10分遅くなったものでございます。路線バスのダイヤにつきましては、函館バスと関係市町村が協議の上、利便性の高いダイヤ編成となるよう努めて参りますが、議員ご指摘の通り結果として逆に不便を強いられる方もいらっしゃるものと認識しております。ご指摘のありました内容については、早速、地域からの意見として12月15日、直接函館バスの社長さんが来庁された時にお伝え申し上げたところでございます。いずれに致しましても、高齢化が進

みJR江差線が廃線となったことから路線バスの地域公共交通機関としての役割は益々重要となり、通院、通学、通勤など地域住民の足の確保はもとより、都市部とのアクセス向上は産業振興の面からも地域における重要な課題であると認識しております。今後、北海道新幹線の開業に合わせ、路線バスのダイヤ改正も検討されることが予想され、運行便数が限られている中で、接続の関係や関係する複数の市町村での調整など難しい面もございますが、可能な限り利便性の向上と法律的な交通体系の編成が図られるよう函館バスを始め、各関係機関との協議を進めて参りたいと考えております。

(議長)

いいですか。

「萩原議員」

はい、いいです。

(議長)

以上で萩原議員の一般質問を終わります。